

医療と福祉充実へ連携

日本海ヘルスケアネットと兵庫のNPO 21日協定

北庄内地域の地域医療連携推進法人・日本海ヘルスケアネット(栗谷義樹代表理事)は21日に、兵庫県北部・豊岡市で医療と福祉の連携を目指すNPO法人「但馬を結んで育つ会」と連携協定を結ぶ。同ネットが県外法人と協定締結するのは初めて。酒田市で同日、締結式を行い、今後、情報やノウハウを共有し、それぞれの地域で充実した医療、福祉の提供を目指す。

情報やノウハウ共有

豊岡市は日本海に面した方、介護需要は変わらない。但馬地域にあり、同地域は見通した。人材不足も懸念。2005年から50年間で人口が半減し、高齢化率は50%近くになると見込んでい。医療需要は人口減少より今後、2割減少する一

トの中核となる県・酒田市病院機構の日本海総合病院や日本海八幡クリニックなどを見学した。同機構理事長でもある栗谷代表理事との意見交換で千葉代表理事らは「連携のメリットをどう住民に理解してもらえばいいか」「総論賛成という意見は多い、合意形成が難しい」などの質問や意見があり、栗谷代表理事からは「地域の中核病院が破綻しないこと、黒字化していることが重要。メリットは必ず理解される」といった助言があった。こうした交流から、協定を締結することになった。



日本海総合病院を視察した千葉義幸代表理事(左から)「但馬を結んで育つ会」のメンバー

2021年11月26日、酒田市

栗谷代表理事は「定住圏やスマートシティの発想、回復期の医療施設の充実など、こちらと違う事情や発想もあり、参考になることは多い。協定締結は双方にとって利点がある」と話した。

(秋葉宏介)